



ワールドゲームズのシンポジウムに参加した長崎(現姓春日)宏子さん

私も協力したいですネ

世界トップレベルのアスリートによる競技を身近に見ることができるワールドゲームズ秋田大会。絶対に見に行かなきゃソンですよ。大会に参加する選手たちには、さりげなく声をかけてあげるような心遣いが秋田を印象づけるんじゃないかしら。

おしゃべり

お酒の本が400冊!!

この4月に美術工芸短大のお隣りに新しくできてから、新屋図書館を利用するかたは約6倍にも増えました。新屋の地場産業「清酒」をPRする酒コーナーは、酒やワインの本のほか歴史資料も展示しています。展示品も募集中です!



新屋図書館でお酒の資料コーナーを担当している佐藤由紀子です

かわらばん



世界エイズデーの街頭キャンペーンをした奈良幸子です(市健康管理課)

まちに出てPRしました

エイズを正しく知ってもらおうと、朝の秋田駅前で5,000枚のチラシを配りました。テレビドラマにもなったせい、高校生や若い人たちがけっこう手にして、見てくれました。これからもエイズに対する正しい理解の大切さを呼びかけていきます。



ひと

カーボン社を設立した秋田大学チームのみなさん

炭できれいにするこだわりが売り物。カルビのお皿が水の上を回るアイデアには、場内大爆笑でした。「楽しい雰囲気や自由な発想が、会社を運営している者として大変勉強になりました」と指導にあたった鈴木勝男さんも感心した様子。学生たちのベンチャー(起業家)精神が、秋田をもっと元気にしてくれる。そんな期待が膨らみました。

ベンチャー精神学びました
「焼き肉好きの男たち六人がつくったカーボン株式会社。回転炭火焼店『炭吉三平』を経営しながら、日本の伝統的な炭文化を見直し、環境を考えた炭の利用法を提案する会社です」と社長役を務めた秋田大学四年の真坂昌弘さん。
パーチャルカンパニー(仮想会社)の設立を通じて、ものづくりの考え方や会社の仕組みを学んでもらおうと、財秋田テクノポリス開発機構などが開いた大学生起業家育成講座での一幕です。
参加した二十八人のみなさんは、市場調査の方法や販売戦略などを学んだ後、五つの仮想会社を設立。十一月十四日には経営発表会が開かれました。

市長ホットライン

市政への建設的なご意見を市長に直接お話ください

フリーダイヤル ☎(0120)681・815

12月24日(木)午前10時~11時



「自由の森で大学ごっこ」 筑紫哲也著 小学館 一九九八年発行

この大学には筑紫さんとの「コネ」で全国から一流の講師が五十人も出ているとのことであるが、本書には、永六輔、大山のぶ代、岸田今日子、宮崎駿、宮本亜門の五氏が魅力溢れる話題を提供している。
私は今年五月、秋田市での文化デザイン会議に秋秋された旧知の筑紫さんと夜遅くまで話し込む機会があったが、この自由の森大学に於ける筑紫さんの意気込みが半端なものでないと知らされた。現代の「咸宜園」、自由の森大学のこれからの注目したいものである。

「自由の森で大学ごっこ」という、実力本位の評価法です。門弟の成績は厳正に月一回評価され、それに応じて進級していくという仕組みです。門弟たちの自治、自給制もこの塾の特徴でした。そうやって学んだ人たちのなかでその後、明治維新や日本の近代化のために働いた者が少なくありませんでした。
なぜ、そんな「お国自慢」を長々とやっているかと言えば、この本の基となっている「自由の森大学」が創られるのと、咸宜園の故事とはどこかでつながっていると思っているからです。...

「公教育が制度化する以前ですら私塾そのものは珍しくありません。にもかかわらず、近代教育史の本に、前史として咸宜園が登場するのは、各藩の上級武士の子弟対象の塾や、創立者の個人レッスンの色彩が強かった当時の「塾」のなかで、ユニークな特色を持っていたからです。
まず入門に当たって、「三奪の法」を採りました。年齢、学歴、身分の三つを奪う、つまり一切を問わない。なかでも最後のものは、きびしい身分社会のなかで革命的とも言えるやり方で、村医者の子にすぎない私の先祖のひとりが入門できたのも、このためでした。

何故日田市で市民大学を始めたかについて「前書きにかえて」で筑紫さんは同市で江戸時代に「咸宜園」という私塾を開いた広瀬淡窓という漢学者に触れ、次のように述べている。

私の私読日誌 本の抄々

—自由の森で大学ごっこ—



市長 石川 錬治郎

本書は筑紫哲也さん(ジャーナリスト)の生まれ故郷、大分県日田市で筑紫さんが同郷の市民たちと五年前に始めた「自由の森大学」という市民大学の活動内容をまとめたものである。

Book

図書館の新刊案内

中央図書館明徳館 ☎(832)9220
土崎図書館 ☎(845)0572
新屋図書館 ☎(828)4215



車椅子のヒーロー
クリストファー・リーブ 著
布施由紀子 訳

映画スーパーマンで人気となったリーブさんは、4年前落馬事故で四肢がまひし、自分で呼吸することもできなくなりました。それでも、人々に支えられ、苦しみと絶望を乗り越え、感動的復活を遂げました。

一般書 市場対国家 上・下 ダニエル・ヤーギン、ジョゼフ・スタニスロー/著 山岡洋一/訳
世界のいじめ~各国の現状と取り組み 森田洋司/総監修、監訳
サンタクロースの大旅行 葛野浩昭/著

児童書 プレブッセとまほうのもり
ルイス・モー/絵 シールス・グラネル/文(幼児から)
森のお店やさん 林原玉枝/文(小学校低学年から)
カレジの決断 アイビーン・ワイマン/作(小学校高学年から)